

郷土食「くき漬け」に興味

新紀州人

くろしお版

異郷で農業に熱意

昨年十一月に大阪府摂津市から紀北町に移り住み、海山区便ノ山のNPO法人ふるさと企画舎の職員としてシソなどの栽培を始めた。予想以上に雨が多く日照時間が短い町。農業をするのに厳しい環境ではあるが「それでも知恵や経験を生かして作物を育てようという気持ちがある」と。農家の人たちの姿勢にほれ込んだ。

山根伸彦さん(24)＝紀北町海山区
NPO法人ふるさと企画舎



〇4〇

ち、山に囲まれ、銚子川のせせらぎが聞こえる。鳥取県でナシ農園を営む山根伸彦さん(24)は、現地の風景が気に入った。春になったら県内外の若者に募集をかけ、農業体験の催しを開こうと計画を練る。参加者が豊かな自然に感動し、自分と同じように町内で農業を始めてくた。

ホームステイ先は電気の通っていない小さな村だったが、現地の人は「物質的には豊かではないけれど、心が豊かだ」と話した。近畿大農学部を卒業後、昨年九月まで一年の農場でキュウリ栽培の手法を学んだ。帰国して就職先を探していたところ、NPOがヤツガシラの茎をシソなどと一緒に漬けた郷土食「くき漬け」の製造販売をしているのを知り、興味を持った。

現在「くき漬け」の原料栽培を一人で任され、九・五坪の畑で堆肥作りに励む。NPOのくき漬け作りは二〇一一年に始まったばかりで、ハウス内で一年中収穫ができたハワイとは勝手も違つが「周りの人の話を聞いて勉強したい」と前向きだ。町に溶け込み、農家の人たちと情報交換を重ねている。

(浅井貴司) 終わり

平成25年1月9日(水)

中日新聞くろしお版